

平成 30 年第 4 回定例会一般質問通告事項

9 月 7 日 午 後	<p>魚 谷 悟 議員（日本共産党） 質問方式：一問一答方式</p> <p>1 豪雨災害について</p> <p>(1) 市民への断水の周知、情報提供はどのように行ったのか。</p> <p>イ いつ県から水没による送水停止の情報を受けたのか。</p> <p>ロ いつ 1 2 時から断水する決定をしたのか。</p> <p>ハ その情報を市民に知らせるためにどのような手立てを取ったのか。</p> <p>ニ 情報提供が不十分であったとの認識はないか。</p> <p>(2) 本郷取水場が水没したことと棕梨、福富両ダムの放流との関係の把握について。</p> <p>イ 棕梨、福富両ダムとも県所管のダムですが、当時の降水量、各ダムの通常時の放流量と豪雨時の放流量についてどのように把握されているか。</p> <p>(3) 全面復旧までに 3 次に渡る緩和が行われたが、その情報について。</p> <p>イ 市民感情の「いつになったら水道が出るようになるのか」を考えたら、一刻も早く断水解除を知らせることが必要であったと考えられるが、断水解除に関する情報をどのような方法でどのようにおこなったのか。</p> <p>(4) 災害時の「要援護者」への給水の対応について。</p> <p>イ 災害時支援の必要な「要援護者」への給水の対応は、防災会や町内会でどのように取り組まれたと把握しているか。</p> <p>(5) 新たに実施した土砂撤去の状況について。</p> <p>イ 罹災証明の申請者で土砂被害の可能性のある方には申請書を送付すると聞いているが、何人に送付されたのか。</p> <p>ロ 現在何件の申請がなされているか。</p> <p>(6) 床上、床下浸水の被災者への「見舞金」の支給について。</p> <p>イ 義援金などを活用して今回だけでも、床上・床下浸水の被災者に市独自に「見舞金」を支給してはどうか。</p> <p>2 災害を経験して今後教訓にすべきことについて</p> <p>(1) 災害時に支援の必要な「要援護者」への対応の充実について。</p> <p>イ 現在「要援護者」の名簿作りは完了していると考えていいのか。</p> <p>ロ その名簿は、防災会や町内会などに開示されているのか。</p> <p>ハ それらの組織で「要援護者」への対処計画はどの程度できていると捉えているか。</p> <p>ニ 行政としてどのような支援をすべきであると考えているか。</p>
----------------------------	---

- (2) 台風で出される避難勧告の体制と実効性について。
- イ 市は避難勧告が出され、住民が避難場所に避難した場合、それを受け入れるだけの体制や物資があったのか。
 - ロ 今回の避難勧告により避難した人は何人だったと把握しているか。
 - ハ 実効性のあるものにするためには、SNSなどの活用とともに、災害が予想される地域に、高齢者などの情報弱者のために広報車を活用して知らせるなどの工夫があるのではないか。
- (3) 災害時、市民に必要な情報の周知について。
- イ 災害時、市民に必要な情報を一刻も早く知らせるために、それなりの性能を持った広報車による広報など、今後改善する必要があると思うがどうか。
- (4) 「安全・安心の町づくり」について。
- イ 市は「安全・安心の町づくり」のいわば象徴として、地震に耐える頑丈な庁舎を建設することに邁進してきたが、今一度「安全・安心の町づくり」の本当の意味を捉え直す必要があるのではないか。
 - ロ 豪雨災害を経験して、「安全・安心の町づくり」について市長の率直な受け止めは。
- 3 新高山の場外舟券売り場について
- (1) その後どのような検討を行ったのか。
 - (2) 現在の市長の考えはどうか。
- 4 土堂小学校の耐震化と「統合計画」にある長江小学校との統合の関係について
- (1) 土堂小学校の耐震化について。
 - イ 「7月下旬頃には、耐震補強が可能かどうか見通せるものと考えており」との答弁があったが、結果はどうなったのか。
 - (2) 耐震化と「統合計画」の関係について。
 - イ 土堂小学校の耐震化と「統合計画」にある長江小学校との統合の関係はどのように考えているか。